

## 現地報告⑱ CMC ポップイ安倍小学校の新年度



10月、CMCポップイ安倍小学校の新年度が始まった。

電気も水道もないポップイ村で今日もたくましく勉強に励む子どもたちがいつもそこにはいる。

村は未だ地雷原に囲まれており、通学路から100mそれるとそこはもう安全地帯ではなくなる。しかし小学校の敷地は2004年に撤去作業が完了しており、子どもたちは校庭で毎日元気に走りまわっている。

福岡の舞の里小学校の支援で作られた舞の里 Pond。村人の貴重な水源である。

牛が進入し、水質が汚濁するため、新たに池の周りに柵を設置した。



新学期開始前、教育省、小学校校長、CMCとで今後の運営のあり方を話し合った。この場で教育省より、CMCによる教師雇用の要請を受け、CMCで今年度、2人の教師を雇用することを決定した。

カンボジアには十分な数の教師がおらず、特にポップイのような田舎の学校には教育省から十分な数の教師がおくられてこないことが多々あるのだ。

教育省の事務所で今年度の生徒人数分の教科書を受け取るホー校長先生。

そして受け取った教科書を学校まで運ぶのも校長先生の仕事。自転車で悪路を進むこと1時間。事務所からポップイ小学校まで重い教科書を運ぶのは一苦勞である。



CMCポップイ安倍小学校への道。雨季のこの時期は道が水没し、移動が大変である。  
(左は雨季始まり頃の6月、右は雨季終わり頃の10月の同じ道。)



バイク移動の我々はこの時期、牛車をうらやましく思う。





CMCポップイ安倍小学校の先生。左は校長のホー先生で5・6年生を担当。中央は1・4年生担当のウエンダー先生。右は2・3年生担当のロムドール先生。



集中して授業に臨む4年生の子どもたち。  
帰れば家のお手伝い。勉強できる時間は貴重なのだ



教室に飾られた日本の子どもたちからのメッセージは子どもたちの宝物だ。



授業後は校庭でのびのびと遊ぶ子どもたち。よく遊び、良く学べば立派な青年へと成長することだろう。



上: のどかなボツパイの風景。  
右: 地雷サインは未だに残っている。

